

平成30年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

人と里をハートでつなぐむらづくり

○集団等の名称 特定非営利活動法人ゆうきハートネット（代表 佐伯 薫）

○所在地 岐阜県加茂郡白川町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

白川町は、岐阜県の東部に位置する「山間農業地域」であり、総面積の88%を山林が占めている。また、65歳以上の人口割合が43%と、高齢化が進んでいる。

町の主要産業は、農業と林業で、農業については、高級茶である「白川茶」に加え、近年、寒暖差が大きい山間地域の特徴を生かし、夏秋トマトの生産に取り組んでいる。林業については、優良材「東濃桧」が特産品となっている。

・むらづくり組織の概要

- ① 平成10年に、10名の農業者が有機農業の生産技術の研鑽を目的として任意団体「ゆうきハートネット」を立ち上げ、稲作を主体に、有機農業に取り組み始めた。
- ② 平成23年に法人化し、有機農業研修施設「くわ山結びの家」を設置するなど、新規就農者の育成や移住者の受入を通じて地域振興を図る体制を整備した。また、本年4月に町が整備した農業研修交流施設「黒川Maruke」では3名の研修生を受け入れるとともに、地域の情報交流の場として、活動を拡充している。
- ③ 具体的には、会員数44名で若手中心の組織となっており、ア)技術向上のための事業、イ)消費者との交流、ウ)新規就農者の参入促進と町内への定住支援、エ)有機農産物の販売促進事業の4つの事業に取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① ゆうきハートネットは、消費者との直接契約販売、名古屋市のオーガニックファーマーズ朝市村での販売、有機農産物を取り扱うスーパーと提携した販売などを通じて、会員の経営安定につなげている。
- ② 講演会、研修会等により、会員の技術向上や新規就農者の技術取得に寄与している。全国的な有機農業の取組面積は耕地の1%に満たないが、白川町の水稲における有機栽培の面積は5.3%と、有機農業の面積割合が高い。
- ③ 法人化した平成23年から7年間で18戸50名の移住者を受け入れるなど、有機農業を始めたい就農希望者を積極的に受け入れている。
- ④ 郷蔵米生産組合、大豆畑トラスト、はさ掛けトラストの取組や、安全なわらを壁材とした「ストローベイルハウス」の建設、有機たい肥、三年番茶の生産など、会員個々による創意工夫した取組が広がっている。

(2) 生活・環境整備面

- ① ゆうきハートネットが、就農希望者に対する農地や住居のあっせんなど、就農・移住全般についてサポートすることにより、若手移住者はスムーズに地域に溶け込み、今日まですべての移住者が地域に定着して農業に従事している。
- ② 田植えや稲刈りなど、消費者との交流イベント、有機農産物を取り扱うスーパーでの販売活動、子どもたちとの農業体験等を通じて、都市住民との交流活動に積極的に取り組んでいる。
- ③ 若手移住者は全ての世帯が消防団に加入し、地域の伝統文化である地歌舞伎に参加するなど地域活動にも積極的に貢献している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、「田園回帰」を志向する若者のニーズに応え、きめ細かなサポートを行うことで若者の新規就農、定住を促し、地域の農業の担い手不足の解消や地域の活性化に大きく寄与しており、今後も取組の継続が期待できる。

有機農業をキーワードに若者のニーズをうまく拾い上げ、移住者が地域に早く溶け込めるよう橋渡しを行い、移住者の夢の実現と地域コミュニティへの貢献に結びつけており、全国における地域活性化のモデル事例になり得るものである。